

論 文

透析室看護婦が対応困難な患者と 関わる場面での看護婦側の要因

榎田 洋子・宮田 真佐美

金沢社会保険病院

An Analysis of Situations of Communication Gaps
between Nurses and Patients with Hemodialysis.

Yoko Masuda and Masami Miyata

Kanazawa Social Insurance Hospital

要 旨

対応困難と感じる患者との関わりの場面を参加観察し、看護婦側の要因に焦点を当て分析した。その結果、患者を対応困難と感じさせる看護婦側の要因として低い自己評価、自責の念、報酬を求める、正当化、終わりなき関係、が抽出され自己防衛が要因の中心を占めていた。

防衛機制が働くと対象の客観的事実が事実として脳に伝わらないため、対象の像が正確に描けず看護婦の対象に対する認識にも変化を及ぼすと考えられた。即ち、防衛機制が働くことが看護婦の認識に大きく影響し、対象を対応困難と感じてしまう危険があると示唆された。

キーワード

透析看護, 対応困難, 自己防衛, 看護婦の認識, 対象理解